

新型コロナウイルス特別緊急助成事業の選考を終えて

選考委員長 小笠原有輝子

はじめに、新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々、およびご家族、関係者の皆様に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、罹患された方々には心よりお見舞いを申し上げます。

私どもは、創設者・小笠原敏晶の遺志を実現するために、今年 4 月から助成対象を文化・芸術分野へ拡大すべく準備をしておりました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大を受け、急遽方針を転換し、5 月に現代美術関係者が置かれている現状把握のためにアンケートを実施しました。その結果、約 9 割の現代美術関係者が創作、研究、発表などの活動機会を失い、約 7 割が今後の活動計画が立てられない状況にあることが判明しました。そこで、経済基盤が脆弱で不安定な立場に置かれている個人及びフリーランスを中心とした現代美術を支える人々を対象に、特別緊急助成を行うことを決定いたしました。これは民間助成財団として独自の視点に立って、柔軟且つ簡易・迅速に支援する試みです。

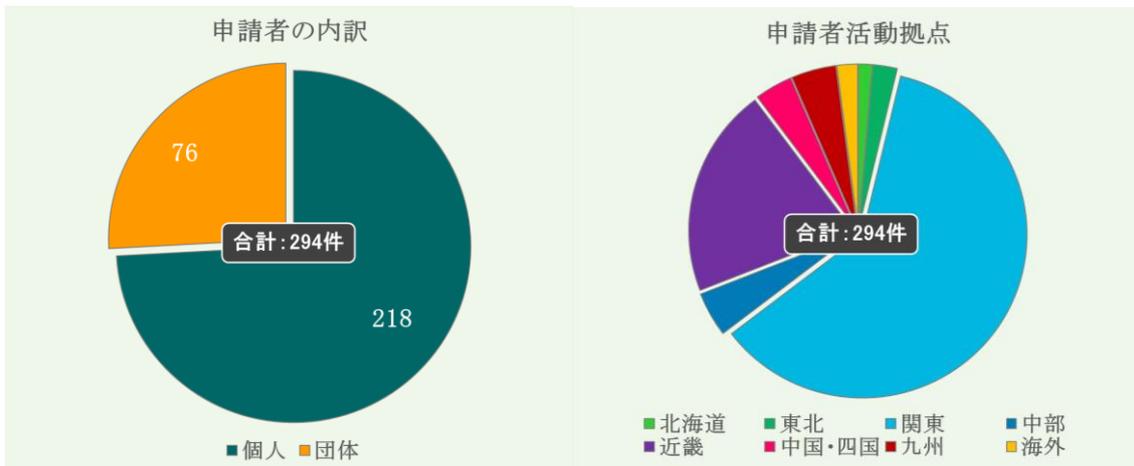
迅速な経済支援を行うにあたって、できるだけ多くの方のニーズを拾えるよう申請書を比較的簡易なものとし、また、芸術活動を継続的に展開するための費用として、幅広く使用していただけるよう助成金の使途については、細かく限定しないこととしました。

その結果、個人、団体・グループから 300 件近い応募をいただきました。選考委員による厳正な審査の結果、当初 100 件であった助成予定を増やして、104 件を採択し、5,000 万円の予算を引き上げ、総額 5,300 万円の助成金を支給させていただきました。どなたも等しく苦しい状況にあることは承知しておりますが、すべての方のご希望には添えなかったことをどうぞご理解ください。

世界から注目される日本の現代美術界をさらに発展させ、より魅力的にすることは、私たちの心を豊かにし、私たち自身の誇りにつながることでもあります。当財団の助成が、美術関係者の皆様にとって、現状の困難を乗り越え芸術活動を継続し、未来へつながる支えとなることを心より祈っております。当財団は、今後、文化・芸術分野への助成事業を拡大し、日本と世界のつながり(絆)を構築してまいります。文化・芸術活動を担う皆様にそっと寄り添える助成プログラムを、引き続き実施していく所存ですので、今後ともよろしくご願ひ申し上げます。

<< 応募状況 >>

6 月 17 日から 7 月 6 日までの約 3 週間の公募期間に、294 件の応募がありました。内訳は個人が 218 件(74.1%)、団体・グループが 76 件(25.9%)でした。関東圏を中心に、全国から応募があり、海外在住の方も若干名いました。現代美術だけでなく、幅広い分野からの応募もありました。



<< 選考プロセス >>

選考にあたり、コロナ禍による損失が大きく、また、この局面で経済的支援が無いと、創作活動上大きな打撃を受けると思われる案件を重視し、可能な限り個人や地域の小さな活動に目を向けて評価する基本姿勢を定めました。その上で、①コロナ禍による活動への影響度、②活動実績、③緊急性、④期待する支援の効果、の4項目について、5名からなる選考委員会が審査を行いました。

<< 選考結果 >>

採択された件数は、294件中104件で、採択率は35.4%となりました。審査の結果、下記のような案件を積極的に採択しました。

- A. 個人や中小規模団体
- B. 地域の文化インフラ的な役割を担う団体
- C. 多様な職種
- D. 損害額や損害の補償状況から見た緊急度の高い案件

A. 個人や中小規模団体を積極的に採択

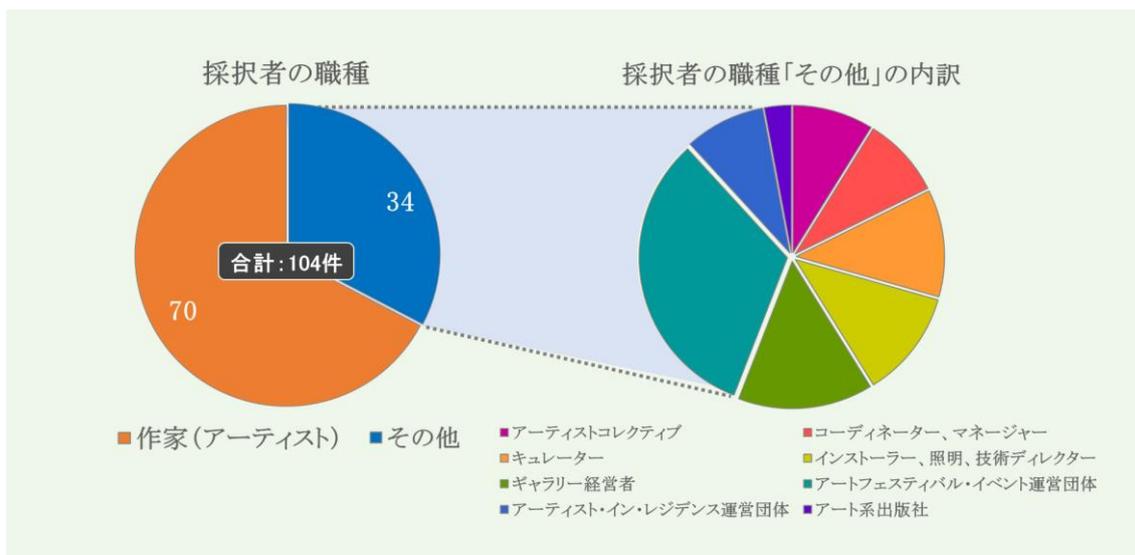
採択案件の内訳は、個人77件(74%)、団体・グループ27件(26%)となりました。個人の活動が中心となる現代美術の分野では、個人への支援が活動継続に直結するため、採択の割合が高くなりました。また、現代美術分野の多様性を担保するため、中小規模団体も積極的に採択しました。

B. 地域の文化インフラ的な役割を担う団体

都市部だけでなく、地域に根ざしたアート・プロジェクトやフェスティバルを実施する団体を重視しました。依然として、東京や京都など都市部を中心とした活動が多い中、地方を活動ベースとする案件も全体の3割程度採択しました。

C. 多様な職種への支援

採択者のうち、アーティスト(作家)が7割を占めましたが、残りの3割はキュレーター、コーディネーターをはじめ、インストーラー、照明デザイナー、ギャラリー経営者、アートプロジェクト・フェスティバルの企画運営団体、アーティスト・コレクティブ、アート系出版社など、現代美術分野を支える幅広い人材も採択しました。



D. 損害額や損害の補償状況から見た緊急度の高い案件

すでに知名度のあるアーティストも、同様に大きな影響を受けており、海外のアート・フェスティバル、展覧会やアーティスト・イン・レジデンスなどに参加する予定だったアーティストの損害が大きいことが明らかになりました。特に、中止や延期になった場合の補償が十分に整備されていない状況が見受けられ、支援の必要性が高いと思われました。

<< 選考を通して明らかになった点 >>

これらの選考過程において注目すべき点として、以下のことが明らかになりました。

- 海外派遣プログラム、海外の展覧会やアート・フェスティバルが中止・延期された場合、予定していた収入の保証やすでに支払った制作費の補償がなく、契約書が無いケースもありました。海外で活動する作家ほど、コロナ禍の影響が甚大だということが明らかになりました。
- 「現代美術」の解釈の幅が広く、演劇、ダンス、音楽分野からの申請もありました。既存の支援・助成システムではすくい上げられない方々が多いたということが明らかになりました。

今回の事業を通じ判明したことは、文化・芸術関係者に対する「セーフティネット」の重要性です。この特別緊急助成事業が、少しでも文化・芸術活動を下支えする「セーフティネット」の役割を果たすことを期待しています。 以上

採択活動名リスト	
1	若手作家の個展中止による損害の補填
2	個展「前線の汀」中止とアートフェア延期による機会損失による損害の補填、及びコロナ禍を受けての新プロジェクト «Standing»ほか新たな制作に向けて
3	2020年に予定していた新プロジェクト、また自粛によって中止になったプロジェクトを継続するための、当面の代替活動
4	展覧会の自粛による収入減を補う新作の開発費および販路開拓
5	個展、講演等の中止または延期による損害の補填
6	展覧会中止・延期による収入減の補填と新作のためのリサーチ
7	コロナウイルス感染拡大による展覧会中止、延期による収入見込み損失に対する補填と、今後の制作とオンライン美術教育の開設 に向けて
8	国内外で活動が制限される状況下での新たな作品制作と発表にむけて
9	六甲ミーツ・アート芸術散歩2020」参加と継続的な制作活動
10	『ジャコウウシの角カバーを編む』増山士郎
11	新型コロナウイルスの影響により無期延期となった海外での個展の準備のために
12	亀山トリエンナーレ2021を開催するための活動
13	中断した新作制作や上映プロジェクトの再開に向けて
14	ドイツでの研修延期に伴い派生した損害の補填と、再開に向けての活動
15	釜ヶ崎芸術大学・大学院2020
16	中断した展覧会、作品制作のためのリサーチ再開に向けて
17	中止した個展の開催および制作費用の補填
18	芸術祭・アートイベントの中止、延期に伴う損失補填と今後の新しいリサーチ、制作方式への転換のための準備資金
19	書店・小売店の自粛による休業、出展予定のブックフェア中止などによる大幅な事業収入減に対する補填
20	自粛による事業収入減による損害の補填
21	複数の展覧会中止による損害の補充と、空いた時間でのプライベートワークの制作と、ネット販売できるプロダクト開発
22	OH! Open House(シンガポール) 企画展の延期による損害の補填、及び予定されていた新作制作を継続するための代替活動
23	展示会自粛に伴う施工業務中止、およびプロジェクト延期に伴うマネジメント業務中止による収入減の補填と、研究活動再開に 向けて
24	Pure Core Installation
25	真鶴アート提灯フェスティバル
26	開催中止となった「二重のまち／交代地のうたを編む」の上映会実施、また新作に向けた制作活
27	出版が確定しており現在中断している写真集出版の資金補填（コロナ禍の事業収入減による）、また中止になった写真展の制作費 と売り上げ補填
28	講師として授業の休止における損失、開催延期にともなう損失と形式を一部変更した展覧会の実施、現在進行中のプロジェクトの ためのスタジオ維持及び再建
29	美術教育用映像教材の制作費として
30	アーティストリサーチプログラム継続に向けて、調査方法の変更に伴う負担増の補填
31	中断した作品制作のためのリサーチ再開に向けて
32	香川県小豆島における「道を開く」プロジェクト
33	表現者を発掘調査するための旅費交通費や展覧会への出展経費として
34	外出自粛期間のコミュニケーションの変化から都市の姿を探求する作品計画、外出自粛期間のコミュニケーションの変化から都市 の姿を探求する作品計画
35	中断した作品制作のためのリサーチ再開に向けて
36	Think School/Think School Jr.
37	コロナ禍下における生活と制作実践
38	コロナ禍後の人とのコミュニケーションについて美術が果たす役割に関する活動とそれを継続するための環境整備
39	東アジアの彫刻概念のリサーチと作品制作
40	パンデミック後のアーティスト・イン・レジデンス (AIR) 事業の形

41	アイスランドでのアーティストインレジデンスの延期による損害補填 ならびに、自粛要請により中断しているリサーチワークの継続に向けて
42	「信濃の国 原始感覚美術祭2020-水の面」とオンラインコンテンツ制作
43	Nevermore/A fable of a fableプロジェクトを継続するための各種活動
44	日仏若手現代美術家のサポートのアーカイブ、オンライン上での情報発信の存続
45	在外研修渡航延期による空白期間における制作活動の継続に関して
46	自粛によって延期された、また今後に予定されている展覧会に向けた制作の支援
47	個展に向けての長期制作の補助、またその実現化
48	トークイベントや展覧会の延期、リサーチプロジェクトの内容変更などによる損失や追加経費の補填
49	新型コロナウイルス感染症の影響により延期していた展覧会「I can speak」の開催に向けて
50	芸術家として新しい活動形態への移行
51	自粛による自身の事業収入源を補い、自粛時においてもアート活動によって社会を活性化させる新事業の開発
52	個展閉場（東京会場）、個展延期（スイス会場）による損害の補填
53	新型コロナウイルスによる事態で延期されたブリュッセルでの2つの展示プロジェクト'N9EF'と'Déjà-mais-vu'の実施
54	オンラインによる協働制作やワークショップ、展覧会の開催
55	αM+「わたしの穴 美術の穴」展覧会延期に伴う、活動費用の補填
56	自粛による展示、事業収入減を補い、新しい展示を企画する
57	感染症禍における芸術活動の展開事業
58	活動自粛による経済的損害への補填
59	ヨーロッパ・中国での展覧会の延期・中止に伴う損失に補填と新規プロジェクトのための費用
60	文化庁新進芸術家海外研修制度渡航延期に伴う当面の代替活動
61	ロンドンでの2つの展覧会延期・中止に伴う費用と減収の補填
62	企画展の延期や、自粛による展示の集客困難による収入の減少により継続が難しくそうな制作活動のための補填
63	延期になった福島県のギャラリー・オフグリッド自主企画での個展「紡ぎの抄」開催と、今後の制作活動の継続に向けて
64	延期後の個展での販売促進に繋がる準備活動
65	アート・プラットフォーム構築事業
66	新型コロナウイルスによるプロジェクト中止の損害の補填、および新作制作のための制作活動
67	持続可能なこれからのギャラリー活動ベースの構築
68	コロナ禍における芸術活動継続の為に作品制作と発表
69	展覧会中止による減収の補填
70	オンライン時代に於ける新たなインスタレーション像の再定義とその提示
71	対馬アートファンタジア
72	非接触型パフォーマンスを実現させるプロジェクト制作に向けて
73	自粛による事業収入減を補う、アトリエ維持、制作活動費用のための補填
74	事業収入の補填、およびウェブサイト・リニューアルとアーカイブ整備
75	再開期の展示へ向けた新しいメディアへの取り組みと、自身の拠点周辺地域のリサーチに基づいた新作彫刻、映像作品制作
76	デコレータークラブ制作展示の延期による再展示、及び今後の展示の活動資金
77	急ぎよ予定変更となった滞在制作と展覧会企画の再構築に向けて
78	S-AIR設立20周年フォーラム「山川異域、風月同天」「集合のダイアログ」S-AIR Exchange Programme 2020 札幌国際芸術祭作家のアテンド業務
79	現代アート作品の制作
80	アートイベント中止による損害の補填
81	展示などの中止や延期による損失の補填と制作活動の継続のための経費補填、新たな時代に対応する事業のための経費補填
82	神山アーティスト・イン・レジデンス2020
83	トーキョーアートスクアッド 90年代資料室
84	パフォーマンス・アーティストとパフォーマンス・アートのサバイブ
85	Lumen gallery
86	感染症による事業収入損害の補填、およびインディペンデント・アーティストの長期的・持続可能な活動に向けての新事業開発

87	2020年・2021年度の制作活動継続のための補償
88	「木津川アート2020」「小豆島ワークショップ」の延期による損害の補填および今年度のプロジェクト・リサーチに代わる活動（2020年3月～2021年3月）
89	フィールドワークの再開と制作活動を通じて修復する地域のコミュニティ
90	Art Center Ongoingにおける企画展の中止による損害の補填
91	第2回 Stilllive（スティルライブ）
92	遅延・中止となったプロジェクトの再起に向けて
93	上映会やレクチャーやアートフェアの中止による損害の補填および現在計画中のふたつの大規模なプロジェクトの実現に向けたリサーチや実験
94	アイムヒア プロジェクト
95	共同制作のための技術型プラットフォームの構築
96	自粛、延期による余白期間を活用したアーティスト・イン・レジデンス事業
97	東京ビエンナーレ2020、オープン・ウォーター～水（*）開く、両芸 術祭開催延期およびその他コロナウィルス感染拡大に伴う制作費等損失補填
98	緊急不要不急ようよう
99	コロナウィルスの影響で中断したリサーチ及び制作の再開に向けて
100	「アサクサ」を継続するための当面の企画及び維持費の補填
101	制作のための環境整備
102	中止、自粛による収入を補う、新事業開発費（ウェブサイトを扱った作品制作費）
103	制作を中断した作品をコロナ禍ののちに展示するにあたってのリサーチ
104	自粛期間に開発した新事業の発展及び、2021年に延期されたイタリアでの作品展示に向けたリサーチ活動に向けて